令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　板橋第六小　学校

■児童・生徒の学力の状況

全国学力・学習状況調査の結果では、全国平均を上回り、都平均を下回っている。特に複数の資料を読み取る問題は正答率が低い。「全国学力・学習状況調査」及び「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、表現や対話に関わる項目、主体性や自己肯定感・自己決定感に関わる項目が低い値を示しているが、昨年度よりは改善されている。RSTの結果は昨年度より上がっているが、平均よりは若干低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

板橋区の授業革新では、一人一人の児童・生徒が豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。そこで、児童の発意発想や問題発見を軸にした授業、児童にとって学習が自分事となり、自ら探究解決していく授業展開を目指したい。しかし児童の主体的な対話の時間を確保できておらず、表現する機会が少ない。前時の授業及び既習事項とのつながりを意識させ、ふりかえりを授業の中で確実に位置付けることが重要である。そのための手段や意識として「読み解く力」を捉え、各教科の目標や学びの本質をねらった授業を構成していく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

自ら考え、挑戦し続ける子（学びのエリアで目指す子ども像）を育てるために以下を重点的に実践していく。
①「自立」と「自律」に向けて、児童が主体的に学ぶための学習環境の整備及び指導法の工夫
（児童が自主的に考え・活動する時間＜１５分以上＞）
②問題を発見し解決するための方法を考え、実践できる力の育成
③読み解く力の育成
④算数少人数の実施
⑤家庭との連携による学習習慣の定着
⑥特別な支援を必要とする児童への個に応じた支援

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
認識（Input）→思考（Think）→表現（Output）の授業の流れを常に行う。一単位時間の授業はもちろん、単元を通して行い、児童が読み取ったことから考えたことを相手に伝えられるようにする。	教科書などのテキストを正しく読めるように、基礎的読解力の６つの視点を意識して授業を行う。特に校内研究、管理職による授業観察では、読み解く力を基に各教科で育成する資質・能力を児童に身に付けさせるような指導法の工夫をする。	ハッピーロード商店街をはじめ、地域とのつながりが強い。自分たちにできることを考え、実践する力を、まちたんけんや店員体験等の学習を地域や家庭と連携しながら育成する。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
板橋のｉカリキュラムを活用し、授業を組み立てる。また、基礎的読解力の６つの視点を意識しながら、各教科の目標を達成できるようにする。これらのことを学びのエリアで確認・共有し、研究授業を行う。 中学校進学までに身に付けさせたい力を共有し、基礎的な学力が定着するように「読み解く力」について重点的に指導を行う。	国語科、社会科、理科や体育科の単元と総合的な学習の時間をつなげ、タブレットを活用し、まとめる活動等を行う。また、読み解く力の６つの視点をどの教科でも意識して行い、関連する視点を児童と確認しながら授業を行う。 また、各学年の学習内容を確認し、教科だけでなく、学年間での交流を多く取り入れ、協働的な学習をより活発にしていく。	話し合い活動や考えを共有する活動では積極的にICTを活用していく。特にジャムボードやオクリンク、スプレットシートを活用し、自分の考えをまとめたり、新たな考えを構築したりするような場面を多くつくっていく。また、ＯＪＴ研修等を通して、教員間でどのように授業でＩＣＴを活用しているのかを共有する時間をつくり、どのクラスでも同じようにＩＣＴを活用した授業が実践できるようにしていく。